

聖書

聖書は、創造者なる神の「知恵、知識、真理の宝庫」

「直ぐな心で（ヨシエル）」、聖書に向かう者は多くの宝を見つけ、何よりも神に出会う

詩篇119：7、エペソ人6：5「真心から」、マタイ13：44-46

しかし、深く知ること「知識」をどれほど積んでも、信じ委ねる「信仰」には至らない

→②ダイナミックな多角的、立体構造：

神の視点、人類史に先立って配備された摂理、歴史、物事の背後に神意 [偶然はない]

→③古代ヘブル（イスラエル）史を通して記された正確な人間史：

過去（史実）を学び、現在を見分け、未来を見通す洞察力習得のテキスト

使徒パウロの宣教

その17

『コリント人への手紙第一』

8章

☆現代の私たちの偶像は何か？

☆キリスト者であることの素晴らしさは、救い主を愛する者たちとの交わりに入ること

- ：1-3「…人がもし、何かを知っていると思ったら…知ってはいない…」（下線付加）：
 - *アオリスト時制、起動相で、「正しい知識を知り始めてもいない」の意
 - *傲慢な態度への警告
 - *すべての知識はキリストを通して神から来る →コロサイ人2：3
- ：4「そういうわけで、偶像にささげた肉を食べることについてですが」：
 - *偶像には何の力も価値もないが、背後に神に反逆する霊が存在
 - *人々は、悪霊が人に入る道のひとつが食物を通してであると信じ、これを防ぐ一つの方法として、肉を神々にまず献げる慣習を踏襲した
- ：7「…ある人たちは、今まで偶像になじんで来たため偶像にささげた肉として食べ…」：
 - *肉を偶像に結びつける当時の慣習は、バビロンに由来
 - *しかし、信徒は、自らの信条をエルサレム会議での決定事項に関連づける必要
- ：8「しかし、私たちが神に近づけるのは食物ではありません…」：
 - *パウロ、コリントの教会の人々が信じていたことを否定
 - *食物自体に宗教的重要性はない
- ：9-10「…あなたがたのこの権利が…つまずきとならないように…」（下線付加）：
 - *この言い回し、一部の信徒の明らかな傲慢を示唆
 - *パウロの配慮は、弱い人たちの前に「つまずきの石」を置かないこと
- ：12「あなたがたは…兄弟たちに対して罪を犯し…キリストに対して罪を犯している…」：
 - *兄弟に対して犯す罪は、キリストに対する罪
 - *キリストと、主にある兄弟姉妹とは一つ
- ：13「ですから、もし食物が私の兄弟をつまずかせるなら…」（下線付加）：
 - *一般の食物に対するギリシャ語用語
 - 「つまずかせるなら、私は今後いっさい肉を食べません」（下線付加）：
 - *「わなを仕掛ける」の意

グノーシス主義

☆ギリシャ語の知識、‘γνώσις、グノーシス’に由来

☆「知識が救いへの道」を信奉したグノーシス派の経典は『新約聖書外典』

☆初代教会教父、その教えを論駁

聖書

グノーシス派の教え

- * 神（霊）とこの世（物質）との徹底的な二元性を信奉
- * 人は身体、魂、霊から構成
- * 身体と魂は地上の存在部分で、悪とみなす
- * 魂に囲まれた霊は、人の中の唯一の神の実質とみなす
- * 救いの目的は、知識によって、眠っている霊を目覚めさせること

グノーシス派の道徳的行為

1. 汚染を避けるため、自身をすべての悪から隔てる
 2. 自由主義形式をとる
 3. 神の本質になるための知識を受けたと信じた
- ☆グノーシス派の教えは、教会内の交わりに破壊的な影響をもたらした
- ☆自分がまさっていると思った者たち、知識を持たない人たちを見下した
- ⇨「一つのかからだ」であるキリスト者は、互いに愛し合うべき
- ☆霊的賜物はキリスト者共同体のためのもの
 - ☆各キリスト者は誇りではなく謙遜を实践すべき

9章

- : 1「私には自由がないのでしょうか…見たのではないのでしょうか…」（下線付加）：
 - * 各問いかけ、どちらも肯定的な答えを要求
 - * パウロ、異邦人キリスト者と自由に飲食した →ガラテヤ人2：11-16
 - * パウロ、「使徒」としてキリストから召名を受けた
 - * パウロ、キリストをダマスコ途上で見た →15：8ほか
- : 3「私をさばく人たちに対して、私は次のように弁明します」：
 - * コリントの異邦人キリスト者、パウロをモーセの食物の掟に縛られているとみなした
- : 4「いったい私たちには飲み食いする権利がないのでしょうか」：
 - * パウロ、自分の自由を弁護
- : 5「私たちには、ほかの使徒、主の兄弟たち、ケパなどと違って…」（下線付加）：
 - * 十二使徒に言及
 - * 「聖職者の独身主義」という考えは、当時知られていなかった
 - * パウロ、自分にも妻を連れて旅をする権利があると主張
- : 7「いったい自分の費用で兵士になる者がいるのでしょうか。自分でぶどう園を造り…」：
 - * 神の民はよく軍隊、ぶどうの木、羊の群れにたとえられた
 - * 兵士は給料制、地の所有者は収穫で生計を立て、牧者は通常、しもべ/「奴隷」
- : 9「モーセの律法には、『穀物をこなしている牛に、くつこを掛けてはいけない』と…」：
 - * ユダヤ人にとって、掟違反はむち打ち刑の危険 →申命記25：4
 - * 神の掟、すべての被造物に対する愛の配慮を反映 →申命記24：15
- : 10「…なぜなら、耕す者が望みを持って仕事をするのは当然だからです」：
 - * 人は神の被造物の家畜を優しく世話する必要
 - * 同じように、教会は各々の働き人たちの世話をすべき
- : 11「もし私たちが、あなたがたに御霊のものを蒔いたのであれば…」（下線付加）：
 - * パウロ自身と、仲間の働き人たち
- : 12「もし、ほかの人々が、あなたがたに対する権利にあずかっているのなら…」：
 - * パウロ、コリントの教会を設立し、コリントの教会の霊の父
 - * パウロ、教会の重荷にならないように、生計を自分自身の手で立てた
- : 13「あなたがたは、宮に奉仕している者が宮の物を食べ、祭壇に仕える者が祭壇の…」：
 - * シラスとテモテがマケドニヤの教会からの贈り物を持ってきた後、パウロ、常勤の説教者になった

聖書

旧約の献げもの

☆全焼のいけにえ、罪のためのいけにえ、罪過のためのいけにえ、穀物のささげ物、和解のいけにえ

☆「十分の一のささげ物」はレビ人の割り当て

☆レビ人の割り当ての十分の一と、七種類の「初穂」、一小麦、大麦、ぶどう、いちじく、ざくろ、オリーブ、はちみつ— は祭司の割り当て

：14-15「**同じように、主も、福音を宣べ伝える者が、福音の働きから生活のささえを…**」：

*働き人に報酬が支払われることは当然

*主にある働き人は、神の言葉のしもべ/奴隷

*パウロ、福音の使者に対する償いに関するキリストの教えを、祭司とレビ人に対する支援の掟に関連づけ

ニコライ派の人々

☆職業牧師、一般大衆を支配する聖職者

☆キリスト、「黙示録の教会への啓示」でニコライ派を非難

→黙示録2：6

☆キリストが示された範例は指導者自ら、しもべとなること

→ヨハネ13：5-14

：16「**というのは、私が福音を宣べ伝えても、それは私の誇りにはなりません…**」：

*パウロは、イエス・キリストの「奴僕」

→ローマ人1：1「しもべ」ほか

：18-19「**…福音を宣べ伝えるときに報酬を求めないで与え…すべての人の奴隷となり…**」：

*パウロ、無報酬の誇りで宣教することを好んだ

*パウロ、自分の宣教を妨害するどんな障害からも自由な立場に身を置いた

*聖アウグスティヌス：「人は神だけに支配されているとき、最も自由である」

：20「**ユダヤ人にはユダヤ人のようになりました。それはユダヤ人を獲得するためです…**」：

*キリストは律法を終わらせたので、信徒は律法の下ではなく、恩寵の下に置かれている

*ユダヤ人に宣教するとき、パウロ、ユダヤ人の慣習に従った

キリストの律法

☆パウロ、キリストへの喜びを示すために、掟を守ることを望んだ

☆パウロ、キリストにあって自分がすべきことをするための自由に生きた

☆新約の時代、儀礼上の律法と民事の律法は廃棄されたが、神の道徳のご命令はそのまま存続

：22「**弱い人々には、弱い者になりました。弱い人々を獲得するためです…**」：

*神ご自身、弱く重要でない者を、強い者を辱めるために選ばれた

：23「**私はすべてのことを、福音のためにして…福音の恵みをもとに受ける者となる…**」：

*パウロにとって、福音宣教は自分のすべてをかける価値のあること

*パウロは回心者が受ける祝福を自らも受けることを喜んだ福音の同労者

：24「**競技場で走る人たちは、みな走っても、賞を受けるのはただひとり…**」：

*コリントのイズミヤの競技、オリンピック競技に次ぐ二番目に大きな競技であった

*信徒は競技者、叱咤激励して走り続けるべき

：25「**また、闘技をする者は、あらゆることについて自制します…**」（下線付加）：

*用いられている動詞は「努力して戦う」の意、生半可な闘いではない

*賞を得るには、ゴールに焦点を当てる必要

：26「**ですから、私は決勝点がどこかわからないような走り方はしていません…**」：

*意識的、目的をもって、立ち向かう

：27「**…ほかの人に宣べ伝えておきながら自分自身が失格者になるような…**」（下線付加）：

*競技で賞を得るのに失格とされるの意、奉仕に対する報酬を失うこと

聖書

10章

- : 2 「**そしてみな、雲と海とで、モーセに着くバプテスマを受け**」 :
- *パウロ、キリストへのバプテスマをモーセによる出エジプトに重ね合わせ
 - *モーセは最初の契約の仲介者
 - *キリストは新約の仲介者
 - *雲と海、敵から離す役割
- : 3 「**みな同じ御霊の食べ物を食べ…彼らについて来た御霊の岩から飲んだ…**」 (下線付加) :
- *象徴的にキリストを指示
- : 5 「**にもかかわらず、彼らの大部分は神のみどころにかなわず、荒野で滅ぼされました**」 :
- *イスラエル人、エジプトに戻ることを望み、偶像を持ち運んだ
- : 6 「**これらのことが起こったのは、私たちへの戒めのためです…**」 (下線付加) :
- *イスラエル人、食物に不平を言い、神を試み、滅ぼされた
 - *むさぼりは、その他のすべての罪へと導く →ヤコブ1:14-15
- : 7 「**…『民が、すわっては飲み食いし、立っては踊った』と書いてあります**」 (下線付加) :
- *出エジプト記32:6からの引用
 - *イスラエルの民、祈りと礼拝のときを余興のときに変え、神への献身を放縱に変えた
- : 8 「**また…彼らは姦淫のゆえに一日に二万三千人が死にました**」 :
- *バラムの扇動で、イスラエル人、バアル・ペオルを崇拝、不品行に放縱
- : 9 「**私たちは…主を試みることはないようにしましょう、彼らは蛇に滅ぼされました**」 :
- *神を冒瀆し、モーセを非難したイスラエル人に神は、宿営に毒蛇の疫病を送られた
 - *民は悔い改め、モーセが祈り、その結果、青銅の蛇が神の救いの手段となった
- : 11 「**これらのことが彼らに起こったのは、戒めのため…私たちへの教訓とするためです**」 :
- *エジプトはこの世、パロはサタンを象徴
- : 12 「**ですから、立っていると思う者は、倒れないように気をつけなさい**」 :
- *自己過信、誇りに要注意
- : 13 「**…耐えられるように、試練とともに脱出の道も備えてくださいます**」 (下線付加) :
- *神が試練に限界を定められたことを知ることは、大いなる安堵
 - *誘惑はサタンから、試練は神から
 - *神は人に心を配り、日夜働いておられる
 - *サタンの攻撃に抵抗することは、永続する信仰の戦い
- : 16 「**私たちが祝福する祝福の杯は、キリストの血にあずかることではありませんか…**」 :
- *旧約の預言者によって預言された新約、キリストによって成就
- : 21-22 「**あなたがたが主の杯を飲んだうえ、さらに悪霊の杯を飲むことは、できない…**」 :
- *信徒は真の神とこの世の富の神に同時に仕えることはできない
 - *神の掟を批判する者、神の上に自分を置いている
- : 25 「**市場に売っている肉は、良心の問題として調べ上げることはしないで…食べなさい**」 :
- *パウロ、いけにえに献げられた肉が公に売られるとき、
その肉にはもはや宗教的意義はない、失われたと、教えている
- : 26 「**地とそれに満ちているものは、主のものだからです**」 :
- *地と地に満ちているものはすべて、主のもの
 - *食事時に唱えられた感謝の言葉
- : 28 「**…もしだれかが、『これは偶像にささげた肉です』と…言うなら…**」 (下線付加) :
- *使用ギリシャ語の意は、異端の儀式を経て屠殺された肉

信徒の人生の指針

1. 他の人々のために犠牲的に生きなさい！
→10:24
2. 神によってこの世から分かたれなさい！
☆信徒の交わりは、この世の交わりとは対照的
3. 神の栄光に焦点を定めなさい！
→10:31